

地域活動の担い手に関する意見交換について

1 課題

地域活動の担い手が減少する中、地域包括ケアシステム（まちぐるみの支え合いの仕組みづくり）を構築し推進するために、市民等の担い手と行政はいかに連携していくのか。

2 高齢者の介護予防・日常生活アンケート調査結果等について

令和4年度に実施した高齢者の介護予防・日常生活アンケート調査にて、地域住民の有志による、健康づくり活動を趣味等のグループを通した、いきいきとした地域づくりについて、参加者として「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計は51.4%、企画・運営（お世話役）としては25.5%となっていた。

アンケート調査の結果では、企画・運営として参加する意思を示す高齢者がいるものの、高齢者が「担い手になる」には、加齢に伴う身体的な理由、身近な人の介護、地域活動に関する情報にアクセスできていないなど様々な事情があることが想定され、地域活動の担い手は減少傾向にある。

3 意見交換

・本市の市民は、どのような動機づけのもと、地域活動の担い手になってきた、また、地域活動の担い手になりたいと思ってきたのか。

・少子高齢化の進行、物価高騰等による経済的不安の増大等の様々な背景がある中、どのような市民等（例 退職した高齢者、地域の大学に通う若者など）が、今後地域活動の担い手になりうるのか。

4 参考資料

高齢者の介護予防・日常生活アンケート調査 令和5年3月